

“多久市 2050 ゼロカーボンシティ”へ

4 者包括連携協定をきっかけにサプライチェーンに広がり

ロ ー ド カ ル

多久市 Roa(d)cal SDGs Project 始動！

多久市民とともにエネルギーの地産地消に貢献し、カーボンニュートラルを実現

田中鉄工株式会社（本社：佐賀県）は、地域の家庭や飲食店等から発生した使用済み食用油（以下 廃食油）をアスファルト合材の製造に使用する重油や軽油の代替燃料として、その地域の誰もが利用する道路や歩道に還元するスキームを構築。廃食油はその地域から発生する地産地消エネルギーとして、循環型社会の実現に貢献します。また、SOx・NOx や CO₂排出の削減等、様々な環境負荷軽減エネルギーとして、地球環境の保全に大きく貢献します。田中鉄工はこの取り組みを「Roa(d)cal SDGs Project」として全国に展開しており、この度、長崎県大村市、北海道小樽市、福岡県大牟田市に続く全国 4 例目として佐賀県多久市での導入を開始しました。



多久市においては、2025 年 1 月に「多久市 2050 ゼロカーボンシティ」を掲げた 4 者包括連携協定を佐賀県多久市、全国油脂事業協同組合連合会、九州フードリサイクル事業協同組合および田中鉄工の間で締結しました。この協定を皮切りに、多久市中央公民館と、Hi ヒロセスーパーコンボ多久店様に廃食用油回収 BOX が設置開始され、同年 6 月には、多久市納所・交流センター びわの郷にも設置。これにより、佐賀県多久市における家庭系廃食油のリサイクルがスタートしました。2025 年 1 月～2026 年 8 月の多久市の家庭系廃食油の累計回収量は 3,366L になっています。2026 年 5 月までの回収分については、本プロジェクトが先行していた長崎県大村市での道路舗装燃料として活用されていましたが、2026 年 6 月以降は松尾建設（株）多久合材工場のアスファルト合材製造用の燃料として活用が開始されています。

「多久市 2050 ゼロカーボンシティ」に向けて、市民・事業者・行政が一体となり資源を地域内で循環させる、これからの時代に不可欠なモデルとして官民連携で推進。今後は、トレーサビリティやカーボンフットプリント（CFP）の仕組みを導入し、廃食油の回収・再生・利活用までの履歴を可視化することで、リサイクルによる CO₂削減量や地産地消への貢献を、市民やサプライチェーンの皆様にも実感いただけるようにしてまいります。

さらに、多久市との取り組みの一環として、未来を担う子どもたちを対象とした SDGs 教育プログラムも実施しています。2025 年 12 月には、廃食油がリサイクル可能な貴重な資源であること、またリサイクルを通じて環境問題の解決に貢献できることを学んでもらうため、九州フードリサイクル事業協同組合の協力のもと、多久市の全小中学校で、廃食油を活用したエコキャンドルづくり SDGs 体験授業を開催しました。今後も、多久市と連携しながら地域の SDGs 教育プログラムを実施予定です。

田中鉄工は、今後も多久市との協働を通じ、ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

■多久市の Roa(d)cal SDGs モデルについて

佐賀県多久市の家庭や飲食店で発生した廃食油が、多久市内の道路や歩道の舗装材料である、アスファルト合材の製造に使用する重油の代替燃料として利活用されています。廃食油を燃料としたアスファルト合材は松尾建設で製造され、重油代替燃料として使用することで、工場から排出される CO₂ が削減。さらに多久市で発生した廃食油を、多久市や近隣地域で循環させることによる ローカル SDGs が実現しています。

地域の道路舗装会社、油脂会社、小売店等との共創、及び多久市の広報×後方支援や小学生への SDGs 教育の推進等により、市民と一体となった廃食油リサイクルドミノが展開されています。この取組により、資源ごみ、化石燃料使用量、CO₂、NO_x、SO_x の排出量の削減、及び下水道と環境への影響、資源の有効活用すべてに貢献することで、地域のローカル SDGs を実現するモデルとなります。

▼多久市 Roa(d)cal SDGs モデルの全体像



■国内の廃食油のリサイクルの現状と課題について

- ✓ 家庭系廃食油の約 96% (9.6 万トン/年) が、現状 ゴミとして捨てられており、循環されていない。
- ✓ 事業系廃食油はほぼリサイクルされているものの、約 1/3 (12 万トン/年) が海外に輸出されており、地域内で循環されていない。
- ✓ さらに、家庭系・事業系ともに、トレーサビリティ及びカーボンフットプリントが確保されていない。

■リサイクルの推進に向けて

廃食油のみならず、小売店等で回収されている食品トレーや卵パック等においても、回収量やリサイクルによる社会貢献量 (CO₂削減量等) を小売店内の店内掲示することでの見える化を推進しております。また、教育機関への小中学生向け SDGs 教育等の提案、TVCM やラジオ CM 放映、各種 SDGs イベント出展等も通じて、地域や市民のリサイクルの意識が高まり、行動変容を促す働きかけを実施しています。

■田中铁工(株)とは

1918年(大正7年)創業のアスファルトプラントメーカー

アスファルト合材生産に関わる製品・サービスの提供をメイン事業として展開

本社：佐賀県三養基郡基山町、国内拠点 15 カ所

資本金：9,000 万円 売上高：約 82 億円 従業員：209 名

▼省庁等との連携事例

省庁・地方自治体・各種 SDGs 団体・民間企業等との連携事例（一部抜粋）

【経済産業省】

- ・経済産業省 2023 年度はばたく中小企業・小規模事業者 300 社 GX 部門 受賞
- ・経済産業省 省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業の先進設備・システムに採択
- ・経済産業省 サークュラーエコノミーに関する産官学のパートナーシップ 参画
- ・経済産業省 地域未来牽引企業 認定
- ・経済産業省 GX リーグ加盟 / 「GX 率先実行宣言」 ゴールドグレード&グリーン鋼材購入とグリーン鋼材製品納入

【環境省】

- ・環境省 令和 5 年度地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業 参画
- ・環境省 令和 6 年度バリューチェーン全体での脱炭素化推進モデル事業参画

【内閣府】

- ・パートナーシップ構築宣言
- ・地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム加盟

【その他】

- ・国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 加盟
- ・長崎県大村市・北海道小樽市・福岡県大牟田市と連携し、Roa(d)calSDGs Project を実施
- ・佐賀県多久市と 2050 ゼロカーボンシティ 包括連携協定を締結
- ・脱炭素チャレンジカップ 2026 日本 WPA 最優秀未来へのはばたき賞受賞

（ロードカル SDGs の取り組み）

- ・第 10 回「ものづくり日本大賞」にて九州経済産業局長賞受賞
（UCO を活用した GX アスファルトプラント）
- ・中小企業版 SBT 認定 / バイオサーキュラーエコノミー協議会加盟 / リグニン協会加盟

ホームページ：<https://tanaka-iron-works.com>